

資料6-1

技術ビジョン・ロードマップの見直しについて

技術ビジョン・ロードマップの見直しの方法

◆ 技術ビジョンの見直しについて

下水道技術ビジョンを定期的に見直し、地方公共団体のニーズに見合った技術開発や、中長期的に重要な技術的課題を解決するための研究開発を反映した内容に更新する。

(下水道技術ビジョン「3.4新技術の導入・普及の推進方策」より抜粋)

◆ ロードマップの見直しの方法

① 「中期目標達成のための課題」「技術目標」等の見直し

…新下水道ビジョンに掲げられた事項を記述したものであり、新下水道ビジョン以降の社会的な変化等に応じて見直しを行う

② 「技術開発項目」の見直し

…①に伴う見直しに加えて、関連企業、大学、研究所、その他団体からの意向を踏まえて必要な見直しを行う

このうち、②については随時関係者からの提案を募り、当会議において毎年度審議の上、機動的に見直しを行っていくこととしている。

技術ビジョン・ロードマップの見直し方法

◆ ②「技術開発項目」の見直し手順

- ◆ 提案があったロードマップの「技術開発項目」については、当会議で毎年度審議のうえ、一定の要件を満たしていればロードマップに反映する
- ◆ 以下の要件に照らして、当会議でロードマップ技術開発項目の見直しについて判定する

下水道技術ビジョン・ロードマップにおける技術開発項目の見直しに必要な要件は、以下のいずれかを満たしていると認められるものとする。なお、見直しがロードマップ全体のバランスを損ない、不整合を生じさせるものでないことが必要である。

- ① 見直し事項が、現下の下水道事業主体である地方公共団体のニーズに見合ったものであること
- ② 国内の事業主体へのニーズは現状では高くないが、国外への技術展開が広く期待されること
- ③ 現状では国内の事業主体や海外でのニーズが高くはないが、社会情勢、行政動向を踏まえると、今後、早急に解決することが必要な技術課題であること
- ④ 現状では国内の事業主体や海外でのニーズが高くはないが、中長期的に下水道の管理・運営上、重要な技術的課題となる可能性が高いこと
- ⑤ その他、会議において必要であると認められたものであること

技術ビジョン・ロードマップの見直し方針(案)

- ① 「中期目標達成のための課題」「技術目標」等の見直しについて
 - ✓ 直近の見直しは、「新下水道ビジョン加速戦略」(平成29年8月)の策定を受け、平成30年2月に下水道技術ビジョン・ロードマップを改定。
 - ✓ 第203回臨時国会の所信表明演説において、菅内閣総理大臣は「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す。」ことを宣言。
 - ✓ 第45回地球温暖化対策推進本部(令和3年4月22日)において、菅内閣総理大臣(本部長)より「2030年度に、温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指す。」との発言。
 - ✓ 地球温暖化対策推進法の改正(令和3年5月26日)



地球温暖化対策の動向を踏まえ、地球温暖化対策に関連する技術開発分野(⑨⑩⑪)の下水道技術ビジョン・ロードマップ「中期目標達成のための課題」「技術目標」等の再整理を進める。

技術ビジョン・ロードマップの見直しの方針(案)

② 「技術開発項目」の見直しについて

- ✓ 「下水道革新的技術の実証テーマ等の募集」(参考資料5)において、公募③についての応募が2件



関連企業、大学、研究所、その他団体からの意向を踏まえて必要な見直しを検討。

(参考) 下水道革新的技術の実証テーマ等募集

◆ 公募分類

◆ 公募①-1:「R4 B-DASH 実規模実証テーマ(革新的技術)」

- ・直ちに実規模で実証できる段階にあり、下水道事業に新たな付加価値を創造するなどの革新性の高い技術

◆ 公募①-2:「R4 B-DASH 実規模実証テーマ(普及推進技術)」

- ・有効技術であるものの、現状その普及展開が十分でないが、適用性の拡大、性能向上等の改善または普及展開上の技術課題解決によって、異なる普及展開が期待され、下水道事業の効率化に資する技術

◆ 公募②:「R4 B-DASH FS 調査テーマ」

- ・実規模実証の前段階として、導入効果などを含めた普及可能性の検討や技術性能の確認を行う段階にある技術

◆ 公募③:「中長期的な技術開発テーマ」

- ・下水道技術ビジョンのロードマップに掲げられた技術開発項目のうち、概ね5~6年以内に B-DASH FS 調査や他の研究開発事業(下水道応用研究、NEDO 事業等)により実用化研究の段階に到達することが見込まれる要素技術等が含まれるもの
- ・下水道技術ビジョンのロードマップにおける該当技術開発項目等が無い場合については、ロードマップへの追加希望についても提出可能

◆ 特に提案を求める技術項目を提示

- 1 省エネやCO₂削減など脱炭素化につながる技術
- 2 運転管理などの維持管理コスト縮減につながる技術
- 3 下水道資源(汚泥、バイオマス等)の利活用など経営改善につながる技術
- 4 老朽化対策や維持管理の効率化などストックマネジメントにつながる技術
- 5 浸水対策、地震対策につながる技術(防災・減災に資する技術)
- 6 広域化・共同化につながる技術
- 7 水環境保全や公衆衛生リスク管理など公衆衛生につながる技術

おことわり

B-DASHの採択等に関する情報については非公開が前提の情報であるため、当会議においても、既に公表済みの採択案件の名称・概要以外は、個別案件の開発者、技術概要等が推定できるような情報を含む資料の提示や公表は一切行いません。